

平成 30 年 11 月 29 日(木曜日)の議案外質問 (名古屋市民オンブズマンによる、自動文字起こしアプリによる文字起こし)

議案外質問

浅井正仁議員(自民)[25 分]

3.名古屋城天守閣木造復元の進め方について

浅井正仁君:議長のお許しをいただきましたので、通告に従い順次質問させていただきます。そして名古屋城天守閣木造復元の進め方について質問させていただきます。

10 月の文化審議会で審議を断念した今でも市民のほとんどが市長の言葉を信じ、2022 年 12 月には天守閣は木造で復元されるものと期待をしています。

こうした市民の期待や信頼を裏切ることなく、誠実に事業を進めていただきたいと思いますので、正直かつ誠意を持ってご答弁いただきたいと思います。お願いいたします。

まず一点目。

スケジュールについてであります。

これまでも、そして現在も木造天守閣の完成時期を 2022 年 12 月としていますが、先月 10 月の文化審議会を見送ったことにより、2022 年 12 月の完成は極めて厳しくなったように感じます。

なぜ 2022 年 12 月完成を死守する、目指すといえるのか疑問があります。

本年 10 月の文化審議会で断念した今、普通に考えれば来年 5 月の文化審議会で認められなければ、2022 年 12 月完成は難しいと思います。

また、5 月の審議会を目指すためには、この前提としての復元検討委員会での審議が必要となります。

そこで質問ですが、5 月の文化審議会までに復元検討委員会を開催していただけるめどが立っているのか、また復元検討委員会の開催に向けて文化庁とは現在どのような調整を行っているのか。

広沢副市長にお聞きいたします。

そして第二点目は情報公開についてであります。

文化庁の調整内容に記載した資料を要求したら、後ほど見せますが、真っ黒塗りののり弁というのが来ました。

情報公開制度の観点から開示できないとする当局の理屈も理解できますが、一方で先日、文化庁に行った際の市長のメモについての情報公開請求がありました。

当初は黒塗りとしていましたが、結果的には開示されません。開示されました。

調整途中の内容が開示できないのなら、なぜ市長のメモが開示できたのでしょうか。

市民に対しても議会に対しても誠意をもって嘘偽りのない対応をしていると信じていますが、一つ、そこで確認をさせていただきください。

市長さん初め副市長さん、職員の皆さんは、2022年12月の木造天守閣の復元を死守する、あるいは目指すと言われていきますので、2022年12月には木造天守閣ができるのでしょうか。先日は市長さんも参加されて名古屋城に使用する木材の伐採を行うなど、木材の調達も着実に進んでいることから、事業としてはそれなりに進んでいることなのでしょう。

市長さん初め副市長さん、職員の皆さんが呪文のように口にしている2022年12月完成を死守する、目指すは嘘や偽りはありませんか。

2022年12月を死守する目指すと言いながら、実は何年も遅れるようなスケジュールで文化庁や石垣部会、文石協と調整しているといったことは仮にもないでしょうね。市民や議会は、市長さんや皆さんの言葉を信じて巨額の税金を使うことを認めていますので、仮に、すでに現段階で実は2022年12月は完成ではないスケジュールで関係者との調整がされているようないるようなことがあれば、市民や議会に嘘をついていることになります。

当然今後実際に事業が進む中で若干のスケジュールの変更がされるといったことはあるでしょうが、少なくとも今は2022年の12月の完成を死守する目指すといったスケジュールで市長さん、副市長、市職員関係者一丸となって事業を進めていると理解してよろしいでしょうね。

そこで2点目も広沢副市長さんにお尋ねします。

この場合もし万一、2022年12月完成は難しいとするスケジュールをすでに検討している、または検討を始めている、あるいは検討する用意があるという現状があれば、正直にお答えください。

これで私の1回目の質問を終わります。

広沢副市長：名古屋城天守閣木造復元の進め方について2点のお尋ねをいただきました。

まず初めに復元検討委員会の開催についてでございます。

文化庁より指摘されている石垣部会との認識の一致について、認識の一致に向けて石垣部会より文石協と相談するようにご提案をいただきました。

現在は文石協から紹介されたコンサルによる助言、指導をいただきながら、石垣の保全方針等を検討しており、5月の文化審議会までに復元検討委員会に諮っていただけるよう努めております。

文化庁との調整につきましては、現時点において、市長みずから幹部に電話で行っており、検討の進捗につきましては、今後当局から適宜報告をさせていただきたいと考えております。

続きましてスケジュールの見直しについてでございますが、議員ご指摘のとおり、市長を先頭に、職員関係者が一丸となって、2022年12月の完成のため努力しているところであります。現時点において完成時期を変更するスケジュールは検討しておりません。

以上でございます。

浅井正仁：それぞれご答弁ありがとうございました。

そして名古屋城さんについては、再質をさせていただきたいと思います。

続きまして市長さんをお願いしたいと思いますので、市長さんの不退転の決意をお聞きしたいと思います。

先ほど 2022 年 12 月の完成を目指す副市長は答弁をしていました。

そこまで責任をもって明確に言われるなら、さぞかし自信がおありでしょう。

実は先日、私は文化庁に行ってきました。

文化庁の担当者は基本的には名古屋市さんがお考えいただくことという立場でしたが、私の受けた印象からは市長さんが常日頃言っておられるように、文化庁としても、できる協力はきちんとするという印象を持ちました。

また 2022 年 12 月完成という時期については不可能といった発言はなく、私の印象としては、名古屋市の頑張り次第なんだろうなということも思って帰ってきました。

ところが当局に確認したところ、未だに次回の石垣部会の日程も決まっていないと聞いております。

5 月の文化審議会まで復元検討委員会で議論していただくには石垣部会との意見の一致が不可欠です。

だとすれば、遅くとも来年早々、1 月中には石垣部会を開かないとだめですね。

さらにこれまでの皆さんの発言では、文化庁との協議の中で、あるいは市長さんの文化庁の次長さんと会われた際に出された課題は、現状ではまだ何も解決していないと思います。早急にこうした課題を解決していくことが大切だと思いますが、一方で今年の 10 月の文化審議会を断念した以降、文化庁には名古屋市として一度も電話もなければ、相談にも行ってきてないそうです。

文化庁に関して昨年 6 月、文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、文化財保護に関する事務をより一層充実させるなら、市長部局において直接文化財保護の仕事を担当できることになりましたが、市長さん知ってますよねこれ。ね、どうされるかはっきりとした議論を私はするべきだと思いますが、市長が本当に名古屋城の木造天守閣の復元を不退転で進めるといふならば市長 1 人の思いが空回りすることのないようにしていただきたいと思います。

ここで市長さんに伺います。

先ほどお話をさせていただきました、これが私が 9 月 25 日、文化庁へ行かれましたよね。

そのときの議事録メモを見せてほしいと担当の方に言うと、このり弁がきました。

（「のり弁」「のり弁だー」と発言するものあり）

きました。で、この黒塗りの意味はどういうことを意味するのでしょうか。

（「見せれない」と発言するものあり）

まさか本会議等で説明したことと整合性のつかないことがらを記録したことがひょっとしたらあるのでしょうか。

公開できない理由、従来、誤った説明が露呈することが嫌だから非公開にしているのか。と同時に市長さんは、文化庁へ行かれた、このメモを公開しました。なぜこちらは出せて、こちらには出さないのか、まず一点目を聞きしたいと思います。そして、もう1問。

2022年を死守するなら、来年5月の文化審議会に諮られる必要があると思いますが、市長さんは来年5月の文化審議会に諮られないことが明確になるまでは、スケジュールの見直しはないという考えでいいんですよね。市長の思いとあわせてお願いします。

市長：まず情報公開の件ですけども、僕のやつは、もうどういったらいいかな。だいたい了解事項なので両方で、文化庁と。だから、石垣部会の了承を得ることとか、それから三つ四つ書いてありましたけど、それは一つこういうふうでというふうにしたこと。その旨記者会見でも喋っておりますし、内容は、わしは初めからこう決めたことだけ、おれは自分のメモを出してもええぞと言ったんですけども、まあ、結局いろいろありまして、まあとりあえずはださんことにしたんですけども、すぐ、じゃあ出しましょうということで全面出しました。

それは決定事項です。一つは。

他のものはですね。交渉中のものというのは、情報公開法、情報公開条例かこっちだと、のルールに従っても役所との折衝中の事項ですね。は公開しなくてもいいと。これは当然ですけどそんなもん出てまったら大混乱しますんで、そういうルールがありません。

そのルールに従ってそうさせていただいた、まあそういうことでございます。

それからまあ、あの一要素に、もっと連絡を緻密に取らないかんって昨日も言ったんですけど。

わしが全部連絡しようかとほんならいって言うことで今はちゃんと文化庁の言われたそのまあ内容に従ってですね。それで先ほど副市長が言いましたけど、まず石垣部会の了解とってくれと。なら石垣部会に言いまして、そのそこで、まず第1弾としてまあまあ相当良いレポートが出とったんですけど。もしこれでだめだったらどうしてどうするのという話の中で、そういう部会の方からじゃあ文石協と相談してくれと。

で文石協と相談しまして、ほれじゃコンサルをやっていただくかということになってそのコンサルからのレポートがおっつけでとるところでございます。

それを待ちまして、まあ石垣部会の言われたとおりのようにしてまいりました。

大変丁寧に対応してまいりました。

これでぜひご了解をいただきたいというふうをお願いをするという段取りでございまして、きちっとまあどうしてもこれは世界で初めてぐらいの巨大が世界で初めてですね巨大な木

造建築物のいわゆる復元でございますので、どうしても若干まあ文化庁も言っていましたけど、名古屋がスタートになるので、丁寧にはお願いしますよということは言われておりまして僕も丁寧にはやりますというふうに言っておりますので。

そういう状況の中できちっと手はずを整えて、物事を文化庁の指示とそれから文石協の、ああ文石協でない、石垣部会の言われるように進んでおっつけ報告書が出るところでございます。

浅井正仁君：市長答えていませんよ。

質問に。5月の木造復元検討委員会まではスケジュールは変更しないという考えでいいんですよ。

市長：それはそのスケジュールでやる、やるということでお話してありまして、その、それに従った指示に従って、こちらも丁寧に動いておるということでございます。

浅井正仁君：5月の木造復元検討委員会まではスケジュールは見直す、見直さないでいいですよ。それまでは死守するんですよ。2022年完成

河村市長：まあ5月がどうのこうのよりも文化庁からスケジュールありきではないと言われておりましてですねこれ。

そもそも、そもそもそういうことじゃないと丁寧に石垣の問題をちゃんとした、

（「22年までとひとつただろう」と叫ぶものあり）

それも当然、初めの目標ですから、それに合わせて努力しますよ。

だけどそれが過ぎたらどう、それがどうのこうのというそういう問題ではちょっと違うということですよ。

それに間に合うようにやりますけれども

浅井正仁君：期日がどうのこうの、2022年は死守して、そちらの方は死守しない、自分の方は死守してこちらはどうでもいい。ね。

（「そんなこと、勝手に審議会をするんじゃない」と叫ぶものあり）

勝手に審議会じゃないっていうのは、役所が言ってんですよ。

1回しかチャンスは出さないのは自分たちなんですよ。ね。

もう時間がないんでやめますけど。ね。

最初の計画は名古屋市は3回ですよ。

復元検討委員会、3回でも文化庁は難しいって言ってましたよ。

今は1回でしょあなたたちの計画。

その一発勝負で本当にやれるんですか。

もう時間がないでね同じ

市長：議長から指名は、議長から指名を受けた

議長：ちょっと、座れ

（「混乱する」「わっはっは」と叫ぶものあり）

浅井正仁君：あのね、2022年は死守する。そして22年まで。ずっと私たちは、復元検討委員会を待ち続けて、残り1日になっても2022年死守するって。今のままだったら絶対何も動きませんよ。

でね、この黒塗りだってね、ね、附帯決議私達はつけました。ね、議会に適宜報告する。ね。

これで何議論するんですかうちら。何を審議すればいいんですか。

（「交渉中のことだから」と叫ぶものあり）

もう時間がないんで終わりますんで、文化庁へ私行ってきました。

これは名古屋市の判断で出せるっていいましたよ。名古屋市さんが判断してくださいって文化庁のことを言いましたよ。

（「交渉中のことだからださなくていいの」と叫ぶものあり）

ね。これでやめますけれども、多分全ての責任は、ね、2020年がもし遅れて税金を使うようなことがあれば、全ての責任は市長にあると思います。

（「そうだ」と叫ぶものあり）

ね。そう言わせていただいて、私の質問を終わらせていただきます。